

## ☆青中野球部優勝、全道へ …46年奥中以来、36年ぶりの快挙

7月3日(火)と4日(水)、6日(金)に江差町で開催された「檜山中体連球技大会・野球大会」で、青苗中学校(校長・大村徳則、生徒33名)の野球部(監督・金子公也、部員・女子1名含む16名)が優勝し、檜山地区を代表して全道大会へ出場することが決まりました。同校野球部は2回戦からの出場、対厚沢部中に延長10回の末に1対0、準決勝の対江差北中に1対0、決勝の対大成中に2対0と、見事に3試合連続で完封勝利し、過去3位(平成16年)の最高成績を更新して初優勝の栄冠に輝いたものです。同校では、過去に女子バレーや柔道で全道大会への出場経験はありますが、野球部の出場は初めてです。また、町内では、現在北海道日本ハムファイターズの投手コーチとして活躍されています元プロ野球選手の佐藤義則さんが、奥尻中学校時代に野球部で活躍されていた昭和44年の初出場をはじめ、昭和46年にも奥尻中学校が出演していますが、今年の青苗中学校の全道大会出場は、それ以来36年ぶりの快挙となりました。「平成19年度北海道中学校体育大会・第58回北海道中学校軟式野球大会」は、8月3日(金)から6日(月)まで、日高支庁管内新ひだか町で開催されますが、青苗中学校の全校生徒や全教職員をはじめ、青苗地区の保護者や地域住民、ひいては奥尻町民みなさんの応援と大きな期待が寄せられています。

●**町長に報告と決意表明** 同校野球部は、7月10日(火)に奥尻町役場を訪問し、和田町長へ檜山大会優勝と全道大会出場の報告をしました。金子監督が優勝した経過と全道大会へ向けての抱負を語った後、同部主将の**加藤祐太くん**(3年生)が出場選手を代表して、「島のみなさんのおかげで優勝することができました。全道大会でも精一杯頑張ります」と力強く決意表明すると、和田町長も優勝と全道大会出場によく頑張ったことを褒めたたえ、「島の代表として頑張ってください」と激励していました。

●**祭会場で激励会と募金** 7月19・20日の両日に開催された「室津祭」の会場で、同校野球部の激励会と、保護者をはじめとする関係者らによる募金活動も行われました。激励会では、ステージ上で金子監督から優勝の報告と全道大会出場の抱負が、また、加藤主将が「1戦1戦集中して、勝利目指して頑張ります」と、元気よく来場者の前で誓っていました。なお、来場者からは大きな拍手や声援が飛び交い、個人で募金したり、お祭りの競技プログラムに参加して獲得した賞金をそのまま募金するチームもあり、会場内全員で同校野球部にエールを送っていました。



## まちの話題あれこれ

### 全道へ続々、活躍する中学生

優勝旗を持ち帰った青中野球部のメンバー



町長に報告と決意表明



### ☆卓球でも個人4名全道へ

同じく7月3日(火)と4日(水)の日程でせたな町で開催された「檜山中体連球技大会・卓球大会」で、奥尻中学校(校長・四辻順一、生徒48名)の卓球部(顧問・犬飼健詞、木村吾勝、部員・12名)3名と、青苗中学校の卓球部(顧問・佐々木浩平、部員5名)1名の合わせて4名が好成績をおさめ、全道大会へ出場することが決まりました。全道大会に出場するのは、奥尻中学校では**佐藤大斗くん**(3年生)、**佐野佑希也くん**(3年生)、**松平拓也くん**(3年生)の3名、青苗中学校では**安達杏子さん**(2年生)の1名で、4名ともに檜山大会個人戦でベスト8(順位は全員5位)に入ったことから、念願の全道大会出場へと変わったものです。なお、全道大会は、8月3日(金)から5日(日)まで室蘭市で開催されますが、青苗中学校野球部と同様に4名の活躍に期待が寄せられています。

### ☆個人参加で全道への快挙

6月9日(土)に江差町で開催された「檜山中体連陸上大会」で、青苗中学校の**葦名ひかるさん**(3年生)が女子砲丸投げで準優勝し、全道大会へ出場することが決まりました。同校では陸上部がないため、葦名さんは体育の授業や放課後の個人練習で砲丸投げを練習してこの大会に個人で参加し、全道大会参加標準記録の9m20cmを上回る9m65cmの記録を出したもので、部活動のない個人参加での檜山大会準優勝と全道大会出場は、まさに快挙といえるものです。また、葦名さんは現在練習中でも10mを越える記録を更新してきていますので、7月25日(水)から27日(金)に土別市で開催される全道大会でも、入賞の可能性が高まり、大きな期待が寄せられています。



惜しくも決勝で敗れた奥尻高野球部 (函館オーシャンスタジアムにて)

## ★ わが家の ★ アイドル ★



高島 友浩さん（字奥尻）の

次女 <sup>なな</sup> **七** <sup>み</sup> **海** ちゃん（1歳10ヵ月）

～両親からのメッセージ～

元気いっぱい、かわいい女の子をめざしてね♡



## ★環境美化で地域に貢献

…業者らが人工地盤で清掃ボランティア

大同舗道(株)奥尻営業所、田中組・堀清水組JV、函館開発建設部江差港湾事務所奥尻出張所などでは、7月3日に青苗地区の人工地盤「望海橋」で、草刈りや清掃のボランティアを行う「グリーンアクション」を共同で実施しました。この活動は、以前から環境保全に関する地域への貢献活動として、奥尻空港周辺での草刈りや清掃活動を行っていましたが、昨年から人工地盤で実施し、ブロック敷きの間から生えてくる雑草や捨てられた空き缶・ゴミなど、約30名が参加して2トントラック1台分を回収しました。参加した後藤節雄大同舗道(株)奥尻営業所長は、「人工地盤の草刈り・清掃は手付かずの上、意外とその量が多い。漁業者や町民の迷惑にならない程度に、私たちがやらせていただければ…」と、今後もこの活動を続けて行きたいと話していました。

## ★奥高野球部

### 2戦連続コールドで決勝へ

…12年ぶり3度目、全道へ一歩及ばず

6月23日から「第89回全国高等学校野球選手権大会北海道大会函館支部予選」が函館オーシャンスタジアムで開催され、北海道奥尻高等学校（校長・佐々木淳一、生徒75名）の野球部（監督・服部洋宜、部員23名）がCブロックの決勝戦へと進出しました。全道大会出場へと1勝へと迫る決勝戦では、全国大会出場常連校の函館大学付属有斗高と対戦しましたが、2対6と惜敗し、念願の全道大会出場にはあと一歩届きませんでした。しかし、今回の同校野球部の躍進ぶりは目を見張るものがあり、1回戦の対森高では7対0（7回コールド）、2回戦の対福島商業高では10対0（5回コールド）と、2試合連続での完封勝利、コールド勝利の快挙を成し遂げ、決勝戦へと圧倒的な強さで駒を進めました。さらに決勝戦では、同校野球部の先発投手が5回まで無安打に抑えるなど、終始押し気味で試合の主導権を握っていましたが、ここまでノーエラーだった守備陣のちょっとしたエラーで得点を許し、最後まで追いつかざるも結局2対6で惜敗したものです。

応援に駆けつけた保護者は「本当に惜しかった。点差のわりには奥尻高校のほうが終始押しまくっていて、勝っていてもおかしくない試合だった。ほんのちょっとしたエラーや経験の差が勝敗を左右したのか。よく頑張った」と、また、同校関係者も「離島の間口校でもここまでできるということで、多くの高校に夢と希望を与えた試合だった」と、健闘ぶりをたたえていました。

なお、同校の決勝進出は、平成6年（対知内高）と7年（対江差高）に2年連続して進出して以来12年ぶりですが、今後の同校野球部のさらなる活躍が期待されています。

▼後藤トモさん



▼上野悦子さん



## ★前委員の後藤さんに感謝状 …新たに人権擁護委員・上野悦子さん

前奥尻町人権擁護委員の後藤トモさん（字奥尻）に、7月10日役場町長室で、法務大臣から感謝状が贈られました。後藤さんは、平成4年から約15年間の長きにわたって奥尻町の人権擁護委員を務められ、町民の基本的な人権の擁護と自由人権思想の普及・高揚をはじめ、心配ごと・悩みごとの相談などにご尽力されておりましたが、平成19年7月1日付で任期満了となって退任されました。このため、後藤さんのこれまでの多大な功績に対し、法務大臣から感謝状が贈呈されたものです。なお、後藤さんの任期満了による退任に伴い、平成19年7月1日付で上野悦子さん（字奥尻）が新たに奥尻町の人権擁護委員として法務大臣から委嘱され、7月10日役場町長室で、函館地方法務局江差支局長から伝達されました。奥尻町の人権擁護委員として長い間ご尽力をいただきました後藤さん、長い間たいへんご苦勞様でした。また、新たに奥尻町の人権擁護委員として委嘱されました上野さん、今後よろしくお願い致します。